

生乳流通過程で「一義的責任」を担う

七月十日〜十二日 県内四か所



(城南運輸(有)松本邦雄社長から挨拶を受ける参加者8名)

広酪は、集乳業務マニュアルを遵守し、適切な集乳業務の遂行や生乳サンプルの適切な採取、搬入時等の生乳流通過程で生じる「一義的責任」を担う集乳乗務員を対象に、その研修会を開催した。



(広酪本所会場 参加者4名)

参加したのは、集乳業務を委託する個人・委託業者五社の従業員を含めた二十四名。広酪からは生産振興課の寺道弘生課長、清水一彦係長、三次CSの山岡直樹技師、出羽未来技師らが講師を務めた。



(㈱東酪広島営業所会場 参加者9名)

研修では、集乳運送業者内での乗務員の入れ替わりや、「慣れ」から生じる確認不足、作業手順の欠落によるヒューマンエラーを防ぐことを目的として、口蹄疫や集乳業務のDVD視聴、集乳業務担当者向け手順マニュアルを使った説明を行い、マニュアルに準じた統一的な業務遂行と集乳車両の定期点検、過去の事例からみる集乳業務中



(㈱カミオカ会場 参加者3名)

に起きた事故対応、その問題点と改善内容、緊急時対応等の情報共有を図った。研修を終えた参加者からは、「慣れた頃にこんなもんでいいだろうという安易な気持ちを持たず、作業マニュアルに従い、確実な作業をしていきたい」、「緊急時の対応や乗務員研修で学んだ正しい情報を活かして正確な集乳業務を行い、失敗がないよう業務改善にあたりたいと改めて感じた」といった感想が述べられた。業務手順の確認と生乳を取り扱う重要な業務としての意識醸成を図ることができた。

どうする?? 生乳生産基盤!

乳業七社「夏季研修」

県内の乳業七社から構成する広島県酪農振興協議会(会長磯崎巖)は、恒例の夏季研修

会を開催した。これには、日頃から生乳原料部門を担当される七社八名の出席があった。

今回の研修テーマは、広酪のコミュニケーション情報誌の「らくのうだより」四月号(No.二百七十七)の特集記事「このままで大丈夫 生乳生産基盤!」を閲覧されたことがきっかけとなり、「らくのうだより」による情報開示と情報発信、広酪の生乳生産基盤の現状と課題等に焦点をあてた研修を企画された。



講師役の西中参事(広酪)は、プロジェクトを用い、広島県の生乳生産基盤の歴史と現状、生乳生産減退と後継牛不足によって脆弱化する生乳生産基盤の課題を提示し、今後の取り組みを説明した。参加者からは、広酪における搾乳ロボット導入への関心はどう

か?新規就農者への支援体制はどうか?夏場の風味異臭対策等への考えはどうか等の質問とともに、意見交換をした。磯崎会長は研修の閉会にあたり、今回の研修は有意義でしたが、その確認が行われた。その評価は、写真(左下)のとおり。

広酪も加わるHJC 「小さな協同」の意義と協同 組合の展望―協同の規模から考える―

広酪も加わる組織「広島県協同組合連絡協議会(HJC)」は、「小さな協同」の意義と協同組合の展望―協同の規模から考える―と題した講演会を開催。

講師には、田中秀樹教授(広島大学大学院生物圏科学研究科)を招いた。

現在の農協等は、「大きな協同」となり、そのため、地域に根付いた細やかな対応が難しくなってきた。これが原因で、組合員の協同組合離れが進んでいると課題が述べられた。

この課題解決には、地域に根付いたきめ細やかな対応が出来る『小さな協同』が必要であると強調され、各地域密着型の組合組織活動として、社会を見据えて、積極的に福祉事業へ取り組まれむ成功事例が紹介された。

今後の協同組合の在り方は、福祉事業も視野に入れた地域密着型を目指し、組合員離れを防ぐ対策が必要であると力を込められた。